

宮島歴史民俗資料館：宮島の商家建築

宮島歴史民俗資料館の 2 階建ての本館は、かつて宮島で最も豪奢な家の 1 つでした。1800 年代初頭に建てられたこの家屋は、醤油の醸造で財産を築いた豪商、江上家のものでした。江戸時代後期（1603～1868）の宮島での裕福な商人の暮らしぶりを感じ取れます。

広い玄関を入ると、左手に畳の部屋があります。畳の部屋の床の高さは玄関よりかなり高くなっています。このすっきりとした機能的なスペースで、醤油商人が座って接客しました。他の部屋はより華やかで、壁に掛け軸やその他の美術品を飾った部屋もあります。もう 1 つ裕福さを感じられるのは、家屋中央の天井に水平に走る太い梁です。建物全体を支えるこの太い梁は 1 本の松の木が使われており、非常に高価だったと思われます。

商家の内観を見た後は中庭に面した部屋でリラックスできます。この中庭が造られたのは、1900 年代初頭に江上家が醤油事業を中止し、旅館を経営する事業者の別荘になった後のことです。庭園内の池には鯉が泳いでいます。4 月から 10 月までは鯉に餌をあげることができます。